

Arimasa MORI : *Leçon de Japonais* 日本語教科書の検討

— 正しい解釈のために —

Study on *Leçon de Japonais* by Arimasa MORI

藤原 雅 憲

Masanori FUJIWARA

1. はじめに

国際交流基金(1983)はその「まえがき」に、「このたび、「教師用日本語教育ハンドブック」シリーズの別冊として「教科書解題」を改訂刊行いたします」と述べ、続けて「昭和51年に発刊された旧版が絶版となったあと、内外の日本語教育関係の方々から教科書に関する新しい情報が欲しいという要望が寄せられており、これに応じて56年より改定の準備を進めてまいりました結果、今回ようやく再版の運びとなったものです」と経緯を説明し、「新版では最新の情報を正確に盛り込むよう努め、かつ教材の比較対照が行われやすいようにそれらの情報を整理し、統一的に提示するよう留意しました」と作成の主旨を述べている。表題の『*Leçon de Japonais* 日本語教科書』(以下、本書)はその127~129ページに取り上げられている。

教科書のタイトルや著者等を紹介した後、「Ⅰ 概要」では、表記法や語彙数・漢字数等に触れ、続いて「Ⅱ A各課の構成 B各課の内容」を要約し、最後に「Ⅲ 特色」で結ばれている。本書について「特色」では次のように記されている。

本書は大まかに言って、次の二点で現在

の日本語教育の主流たる方法論からそれていると思われるので、日本語教育の教科書として使いにくいものだと思う。

その第一点は各課の記述が文法中心で、つまり“本文”が文法解説で、その後にあるわずかの練習問題が翻訳中心であること。この方法は、G-Tメソッド(Grammar and Translation method)として、一般的な外国語教育の方法としては、現在では時代遅れとなった方法である。科学技術関係の論文などを翻訳するため、短期集中的に日本語を習得させよう、という目的ならば、このG-Tメソッドもそれなりの効果はあろう。しかし本書はそのようなことを目指しているものではないのである。

その第二点は、準拠した文法が全く国文法の域を出ていないこと。外国語の専門家で、その専門とする国の文化を日本に紹介することを本来の仕事と考えていた者が、逆に日本語と日本の文化をその外国に紹介しようとする時、ふりかえって日本を見てみると、その人の目に入ってきたのは、従来の国文法しかなかったのではないかと思われる。つまり、日本語

の専門家ではない人が、日本語の文法と言われてすぐ思いつくのは、中学以来のあの国文法なのである。本書の著者もこのようにいきさつで、国文法を取り上げたのであって、それが外国人に日本語を教えるのに適していると思って取り上げたのではないであろう。なぜなら、日本人向けの従来の国文法は日本語教育のためには役に立たない、ということは日本語教育界の常識になっているからである。以上が、国際交流基金（1983）が本書を評した文章である。それは、「日本語教育の主流たる方法論からそれている」という批判である。本書の著者は1972年頃に次のように語っている。

フランスに行ってから、生活の必要上、日本語を教えるんでありますけれども、そのときはじめて、ことばという問題は非常に重大な問題だということに気がついてまいりました。で、単にことばは実用の問題に限らず、もう少し深い人間のあり方、また普通大ざっぱに国民性とか、習俗とか、いろいろ言っておりますけれども、実はそういうふうなものが非常に強くことばのうちに表われてるんだと、そういうことを、日本語を教えているうちに、非常に気がついてまいりました（川本編1977：9）。

本書出版時期の発言である。言葉に対してこのような見方を持つ研究者に向けられた上記の批判は正鵠を射ていないのではないかと、というのが本論執筆の動機である。

2. 本書の概要

まず、本書の概観を述べる。

書名：*Leçon de Japonais* 日本語教科書

著者：Arimasa MORI

職名：Professeur Associé à l'Institut des Langues

et Civilisations Orientales de l'Université de Paris III

Visiting Professor à l'Université Chrétienne Internationale à Tokyo

発行：Librairie TAISHUKAN. 3-24, Nishikicho Kanda Chiyodaku Tokyo

版權：©Arimasa MORI 1972

印刷：Imprimé au Japon par l'imprimerie KEN-KYUSHA

書籍番号：N° d'ordre Librairie TAISHUKAN 3085-352070-4305

装丁：Décoratrice de livre Kumiko TOCHIORI

目次：

口絵

- (1) 本居宣長62歳の自画像（1790年）
- (2) 二人の弟子を伴った聖徳太子肖像画
- (3) 三十六歌仙の一人源重行の和歌

序文 (avant-propos)

Leçon 1. 記載法と発音

- § 1. 予備ノート
- § 2. 音
- § 3. アクセント
- § 4. 文
- § 5. 区切り方
- § 6. 五十音図

Leçon 2. -desu, [-(de) arimasu] と -de (-wa) arimasen

- § 7. -desu, [-(de) arimasu] と -de (-wa) arimasen
- § 8. 品詞
- § 9. 注解 (Remarques. 以下, 同様)
- § 10. 語順

Leçon 3. 品質語(1)

- § 11. 活用する品質語
- § 12. 修飾語と被修飾語の関係
- § 13. 活用しない品質語
- § 14. 注解
- § 15. 「は」「も」「と」以外の助詞

- Leçon 4. 品質語(2)
 § 16. 活用する品質語(形容詞)と活用しない品質語(形容動詞)
 § 17. 品質語の比較構文と最上級構文
- Leçon 5. 人称代名詞と指示代名詞
 § 18. 人称代名詞と指示代名詞
- Leçon 6. 動詞(1)
 § 19. 日本語の動詞
 § 20. 日本語動詞の活用
 § 21. 第1グループの動詞: 四段活用動詞
 § 22. 第2グループの動詞: 一段活用動詞
 § 23. 不規則動詞
- Leçon 7. 動詞(2)
 § 24. 動詞のアスペクト
- Leçon 8. 動詞(3)
 § 25. 補足的注解
- Leçon 9. 助動詞(機能的接尾辞)(1)
 § 26. 助動詞(機能的接尾辞)
 § 27. 陳述「だ」の活用
 § 28. 否定の助動詞「ない」「ぬ」「まい」
- Leçon 10. 助動詞(機能的接尾辞)(2)
 § 29. 助動詞「-た」: 過去, 完了, 継続
 § 30. 願望「-たい」
 § 31. 仮定・未来を表す「-う」「-よう」「だろう」
 § 32. 推測を表す「らしい」「べし」
- Leçon 11. 助動詞(機能的接尾辞)(3)
 § 33. 尊敬・謙譲を表す助動詞(話し相手との関係)
- Leçon 12. 敬語
 § 34. 敬語
- Leçon 13. 数詞
 § 35. 数詞と数量詞
- Leçon 14. 副詞と連体詞(限定詞)
 § 36. 副詞
 § 37. 連体詞
- Leçon 15. 間投詞
 § 38. 間投詞
- Leçon 16. 接続詞
 § 39. 接続詞
 § 40. 等位接続詞
 § 41. 従位接続詞
- Leçon 17. 助詞(1)
 § 42. 助詞の用法
 § 43. 助詞の連なり。連ならない助詞
- Leçon 18. 助詞(2)
 § 44. 後置詞句
 § 45. 接続詞による (§ 16・17参照)
 § 46. 形容詞句・副詞句による連体・連用
 § 47. 二者適用(…も…も, …たり…たり等)
 § 48. 「-ので」「-のは」「-のが」「-のに」
- Leçon 19. 文字
 § 49. 日本語に用いられる文字
- Leçon 20. 日本語
 § 50. 日本語
- Vocabulaire français-japonais
 Traductions-modèles
 Index
 Go・jū・on・zu ごじゅうおんず 五十音図

3. 記述内容—Leçon 2を例に—

本書のLeçon 1は予備的な情報の提供を目的としている。Leçon 2~18は日本語文法の記述に充てられている。Leçon 2を例に文法記述の方法を見ていくことにする。

第2課 (Leçon 2) : -desu, [-(de) arimasu] と -de (-wa) arimasen

[注] まず, § 8から § 10までの部分を読んでください。次いで, § 7に戻り, 最後に全体を読み直してください。

§ 7. -desu, [-(de) arimasu] と -de (-wa) arimasen

「-です」は原則として, 活用しない語の後に使われ, 断定の意味を持つ発話を作ります。

Hon-desu. ほんです。C'est un livre. (c'est un livre, dis-je).

a) *Kore-wa hon-desu.* これはほんです。C'est un livre. (「これ」は話し手に近いことを示します。)

「A-wa B-desu」という形式は、フランス語の「A est B」という文に対応する基本文です。

[注]「-です」は活用する品質語の後にも使われます。また、動詞の後にも使われます。その場合、助詞の「-の」などが両者の間に用いられます。それらの用法はもっと後の課で学んでください。

「A-wa B-desu」という形式の中で、「-wa」は、文の表す意味の違いによって他の助詞に置き換えられます。

A-mo B-desu. AもBです。A aussi est B (A, lui aussi est B) .

「-arimasu あります」は、もともと存在を表す動詞表現で、フランス語の「exister」です。しかし、「-であります」という形式は「-です」と同じように使われます(ただし、「-であります」は、活用する品質語の直後には使われません)。

b) *Kore-wa hon-de-arimasu.* これはほんであります。C'est un livre.

c) 否定の形式: *Kore-wa hon-de (-wa)-arimasen.*
これはほんで(は)ありません。Ce n'est pas un livre.

本書では、*de (-wa)-arimasen*という表現は、*-desu*の否定として扱います。*A-wa B-de (-wa)-arimasen* AはBで(は)ありません、*A n'est pas B*, という形式の中で2番目の「は」は義務的なものではなく、否定を強めているだけです。ですから、「*A-wa B-de-arimasen* AはBでありませぬ *A n'est pas B*」と言うことができます。この「-wa」というのは、文が要求すれば、他の助詞に置き換わります。

A-wa B-de-mo-arimasen. AはBでもありません。A n'est pas B non plus.

形式b)の場合も同様です。

A-wa B-de-mo-arimasu. AはBでもあります。A est aussi (en même temps) B.

しかし、この2課では、形式のa)とc)に限定します。形式c)は少し特殊な用法です。

[注] *-desu*は*-de (-wa)-arimasen*と同じく活用しない語に付きますが、先行する発話に資格を与え、活用しない語と一体化します。その意味は断定であり、肯定の場合も否定の場合もあります。

「*-de-wa-arimasen*」の「*-de-wa*」はしばしば「*ja*じゃ」という短縮形に代わります。くだけた言い方です。

これはほんではありません。

Kore-wa hon-de-wa-arimasen

これはほんじゃありません。

Kore-wa hon-ja-arimasen.

§ 8. 品詞

本書では、語や助詞は次のように分類されます。

1. 活用しない語 名詞 (名詞的語)
活用しない品質語 (数詞)
(副詞)
(連体詞)
接続詞
間投詞
2. 活用する語 動詞
活用する品質語または形容詞
3. 尊敬や謙譲を表す接頭辞と接尾辞
4. 助詞または道具語 助詞
助動詞

語彙 (Vocabulaire) 1

名詞

hon ほん 本 livre

hako はこ 箱 boîte

<以下, 略>

助詞

-wa は
-mo も
-de で
-to と

指示代名詞

kore これ ceci
sore それ ce, cela
are あれ ce qui est là-bas

接続詞

-de-wa=ja (jā) では = じゃ (じゃあ) alors

副詞

sō そう ainsi, oui

間投詞

hai はい oui
ie いいえ non

疑問助詞 …ka

例 (1 から40まである。選別して記載する。

番号は本書の通り)

- 1) honほん un livre
3) hon-to kamihōんとかみ
un livre et une feuille de papier
12) Kore-mo hon-desu. これもほんです。
Ceci aussi est un livre.
18) Sore-wa tsukue-desu ka. それはつくえ
ですか。 Est-ce une table?
19) Hai, tsukue-desu. はい, つくえです。
Oui, c'est une table.
20) Hai, sō-desu. はい, そうです。
Oui, c'est cela.
21) Sō-desu. そうです。
OuiまたはC'est cela.
24) Sore-wa tsukue-de-wa-arimasen ka.
それはつくえではありませんか。
Cela, n'est-ce pas une table?
25) Hai, tsukue-de-wa-arimasen.
はい, つくえではありません。
Non, ce n'est pas une table.

- 27) Sore-wa nan-desu ka.
それはなんですか。
Qu'est-ce que c'est que cela?
28) Kore-wa isu-desu. これはいすです。
C'est une chaise.
31) Sore-mo kore-mo hon-desu.
それもこれもほんです。
Ceci et cela aussi sont livres.
32) Sore-mo kore-mo hon-de-wa-arimasen.
そこれこれもほんではありません。
Ni ceci, ni cela ne sont des livres.

§ 9. 注解 (Remarques)

- a) 日本語の名詞はその定義上, フランス語の実質詞 (substantifs) にいくぶん似ています。ただ, 文法的性や数を形態に表さないという点が異なっています。日本語の名詞は活用 (屈折) しないのです。逆に, 日本語の名詞には多くの場合, 助詞 (enclitiques) と呼ばれる小詞が付加されます。多くの活用しない語にはもちろん活用する語にもしばしば付けられます。助詞は前接する語の文法的役割を示し, その語と, 文中の他の要素, 特に活用語と関係付けるのです。名詞や活用する品質語だけでなく, 活用しない品質語も含まれます。文法的性や数という考えを導入するには他の手段が必要ですが, それは後ほど述べることにします。
- b) 「これ」「それ」「あれ」という指示代名詞は, 既出で照応可能な名詞を指し示す用法だけでなく (筆者注: 文脈指示用法), 会話 (実際の, または仮定の) の中で名詞 (指し示される事物) が, 話者や話し相手, 第三者との関係で占める位置を表す用法もあります。その位置はいつも, 一人称の視点から捉えたものです。このことをよく理解するためには, 次の形の意味を知ることが肝要です。

ko- 話し手に近い

so- 話し手から離れ、話し相手に近い

a- 話し手や話し相手からは離れ、第三者に近い

do- 疑問または不定

上の4つの分類は拡張でき、人、場所、方向にも使え、また形容詞的にも副詞的にも使えます。

<物>

kore ce qui est ici

sore cela, ce qu est là

are ce qui est là-bas

dore lequel

<場所>

略

<方向>

略

<形容詞的, 連体>

略

<副詞的, 連用>

略

副詞の「そう」は語彙 (Vocabulaire) 1の中で見ました。前に触れた例20)の「そうです」の「そう」は文字通りの意味は、「あなたが理解した通り」ということです。実際の会話では「oui」や「c'est ainsi」として使われます。

c) 助詞というのは、活用しない小詞で、活用しない語に付加されます。時に、活用する語にも付きます。

助詞は形態変化を起こさないし、前接語の意味を変えたりせず、活用語(特に動詞)や活用しない語との論理関係を示します。文中の語は助詞の助けによってその役割を果たします。

中でも助詞「-wa」は本質的な働きが、前接の語を目立たせたり孤立させたりすることです。多くの場合、「-wa」は文頭に現れて、文の主題を示します。また、何らかの発話意図を際立たせる働きがあります。よって、「ko-

re-wa hon-desu」という文では、「kore-wa」はフランス語の「quant à ceci (これについて言えば)」あるいは「quant à cet objet-ci (この物について言えば)」に対応します。文字通りの翻訳は「quant à ceci, il s'agit d'un livre (これに関して言えば、まさしく本です)」となります。

「-mo」は付加の印で、共主題 (co-thématique) を表します。「kore-mo hon-desu. これもほんです」=「ceci aussi est un livre.」

「二者適用」(tour balancé) 構文である「-mo...-mo」という形式は日本語ではよく用いられ、肯定の意味にも否定の意味にも使われます。前述の文例31)と32)を参照してください。

助詞「-to」は、活用しない語、またはそう見なされる語を繋ぐ結合の印です。「yama-to kawa やまとかわ une montagne et une rivière」でみられるように、「-to」はフランス語の「et」と同じです。ただ、「-to」には他の用法が多くあるので、注意が必要です。

学んだばかりの「-de (-wa) -arimasen」の「-de」は「-desu」の否定の形です。文の頭の「-de-wa」は定形の接続詞で、活用しない語の後の「-de-wa」と混同しないようにしてください。いずれにせよ、正しく日本語を書くためには、助詞だけでなく助動詞も注意深く学習しなければなりません。

§ 10. 文中での語順

前述の例文を注意深く検討してください。動詞と、助動詞はいつも文の最後に来ます。修飾語は被修飾語の前に来ます。これ以外には、語順に関して厳密な規則はありません。ここで言えるのは、主語そして、「は」を伴う語は文頭に位置し、動詞、動詞+助動詞、一つあるいは複数の助動詞は文末に来ることです。両者の間には、補語や副詞などが現れます。これらは必ず動詞の前に現れます。時に、

等位接続詞や副詞的な語が文頭に來ます。疑問文において語順は變動しません。

また、日本語を書くときには語順が重要であることを知らねばなりません。用いた語の配置によって文の意味が微妙に異なることがあるからです。この点に関して、日本語を正しく書くには文法と同程度に文体 (stylistique) も大切なのです。

翻訳練習 (Exercice de thème)

- 1) un livre; une table ; une chaise.
- 2) une boîte et un crayon.
- 3) un kimono et un costume européen.

4) Ceci est un livre.

..... (5) と6) は略)

7) Est-ce une boîte, ceci?

Oui, c'est une boîte.

Oui, c'est cela.

Non, ce n'est pas une boîte.

Non, ce n'est pas cela.

..... (8) は略)

9) Ce qui est là-bas, n'est-ce pas une rivière?

Si, c'est une rivière.

..... (11) は略)

12) Voici un livre et une feuille de papier.

答えを日本式に書きなさい。つまり、縦書きで、次の行は左側に続きます。

翻訳課題 (Thème) 1

1. 疑問文には原則として2点の重要事項があります。a) 語順変化が起こらない, b) 疑問文は助詞「か」で終わる。

(例) Est-ce un livre? Kore-wa hon desu-ka?

< Vocabulaire (語彙) > aussi mo も

< Sujet (課題) 1 > Est-ce aussi une table?

2. 否定文は、肯定の意味を持つ接尾辞を否定の意味を持つ接尾辞に置き換えることによって得られます。

(例) Ce n'est pas un livre. Kore-wa hon de-wa-arimasen. これはほんでは

ありません。

de-wa-arimasen は、肯定の接尾辞 desu を置き換えたものです。下の課題で困難なのは、2つの文が「mais (しかし)」で結びついていることです。この困難さを解決するのにいくつかのやり方があります。1つは、2つの文をただ並べるだけで、初めは肯定文で後は否定文になります。2つ目は、初めの文を助詞「te」で終わらせ、その後で後の文を続けるのです。

(例) Ce n'est pas un livre, mais une boîte.

A) これはほんではありません。これははこです。

B) これはほんではなくて、はこです。

< 課題 2 > Non, ce n'est pas une table, mais une chaise.

以上が Leçon 2 の内容である。まず、国際交流基金 (1983) の批判の妥当性について検討する。

「この方法は、……一般的な外国語教育の方法としては、現在では時代遅れとなった方法である」という批判がある。Leçon 2 が示す内容は、日本語学習の初心者向けではなく、初級日本語を修了した学習者に向けて、改めて日本語文法を振り返るものとなっている。例えば、「-arimasu」について、「もともと存在を表す動詞表現で、フランス語の「exister」です。しかし、「-であります」という形式は「-です」と同じように使われます」と説明している。「AはBです」を教える時に、後の課で学ぶ存在動詞「あります」を持ち出すことは通常行われぬ。そのことは著者も十分承知しているはずである(本論4節の「序文」を参照)。「箱であります」と「箱があります」とを関連付けながら、その違いに学習者の注意を向けさせているのである。また、Leçon 2 の「翻訳練習」の9) では「Ce qui est là-

bas, n'est-ce pas une rivière? Si, c'est une rivière.」という問答を出題している。否定疑問文への答え方は日本語とフランス語で異なっているので、説明が必要なところであるが、本文では扱われていない。

このように本書は、「一般的な外国語教育」として見なされる範疇に属するのではなく、著者独自の意図を実現させるべく作成された教科書と捉えるべきである。

次に文法の記述方法を検討したい。

「-です」は活用する品質語の後にも使われます。また、動詞の後にも使われます。その場合、助詞の「-の」などが両者の間に用いられます」という部分がある。初めは何のことかわからなかったが、小考の後に、「おもしろいのです」「やっとわかったのです」のように使われる「の」であることに気づいた。ここには問題点が2つある。1つ目は、「-です」が述語であるから、述語の複合形式に言及する必要性を考慮して、その記述を行ったことである。しかし、それは性急であり、また、記述の均整を乱すことになったのではないだろうか。さらに言えば、著者は「それらの用法はもっと後の課で学んでください」と付言しているが、本書にはその箇所がうかがえない。

2つ目は、「助詞の「-の」が両者の間に用いられ」という記述の仕方である。「おもしろいのです」を例に取れば、たしかに「おもしろい」と「です」の間に「の」が挟み込まれているように見える。が、それは表面的な現象の記述でしかない。述語の複合形式を説明するためには、「おもしろい(です)」「の(です)」という分節化を行う外はない。その上で、「のです」の役割を説明することになる。Jordan (1987) のように、それを「拡大述語 (extended predicate)」と名付けてもいいだろうし (pp.178-179), その役割を、文脈や状

況への関連付けと捉えてもいいだろう。

一方、次のような記述もされている。

文中の語は助詞の助けによってその役割を果たします。中でも助詞「-wa」は本質的な働きが、前接の語を目立たせたり孤立させたりすることです。多くの場合、「-wa」は文頭に現れて、文の主題を示します。また、何らかの発話意図を際立たせる働きがあります。

ここでは著者は、「は」の働きを的確に記述している。特に「孤立させ」という部分は、文を「トピック-コメント」構造に分割するという言語学的見地に立った記述である。日本語学習者には格好の説明ではなからうか。

4. 本書の意図

著者が本書を執筆した意図は序文に表れている。仏文による序文を以下に翻訳する。

序文 (avant-propos)

本教科書の目的は、現代日本語の諸要素を手短に説明するというよりは、この言葉の実際の語法についていくつかの情報を提供することです。特に、翻訳練習(フランス語→日本語)と作文を重視しますが、これらは、日本語学習を確実なものにするためには決定的なことに思われます。日本語が西欧人にとって複雑であることは明白です。その複雑さは、言語構造の”内部”理解によってしか見抜くことができません。複雑さは、ただ練習するだけ、自発的に繰り返して書くという練習によってだけ、日本語を学ぼうとする者に理解できるようになります。

日本語では文法 (grammaire) は確かに、この言葉を本当に知ろうとするのに不可欠で、貴重な情報を提供してくれます。しかし、文法を使って文を書こうという

ように用いることは、その性質上難しいです。学校で用いる”規範”文法というのがありますが、それは、日本語の表現の中で認められる規則性を整理したものにすぎません。一方フランス語の場合に見られるように、いわゆる文法というものは、言語の構文の用い方に資するものなのです。実際、日本語文法は、ある程度の規則性を示しつつも文法規則には集約しにくい日常表現を正確に書くということにはあまり役に立ちません……。それでも、日本語で正しく書くためには、文法に関する最低限の知識が必要です。その知識を本書で示したいと思います。日本語の文章には文体の難しさがたくさんあります。本書では、もっともよく用いられる文体に限定しようと思います。丁寧さという言葉の迷路の中に彷徨うことのないようにしたいのです。この迷路は、日本人の社会階層に基づく、複雑な人間関係の表れであり、様々な表現法があるのです。外国人というのは日本社会の中では特別の地位にありますから、丁寧さの厳密な使い手とは見なされていません。文体を限定するという本書の狙いも可能なのです。

“書く”ためには十分に話せなければならず、ある程度まで読めなければなりません。本書を効果的に使用するには、他の教科書で日本語の基礎を学んでいること、さらに、易しい読み物を読むことができる力が備わっていることが肝要です。私が勤めているINLCOでは、長沼の標準日本語読本を15年前から使っています。その他にも読解教材がたくさんありますから、その中から適宜、読者が選択されるのがいいでしょう。それらの教材をあらかじめ、また同時に学習するこ

とが必要です。注意深く読み進めていけば、上手に書けるようになります。品詞それぞれの意味と用法を完全に理解することの重要性を強調しすぎることはありません。特に、フランス語にはない助詞や助動詞、丁寧表現の理解に努めましょう。フランス語に対応する品詞、フランス語に近い品詞に対しても、“数詞”の場合などと同様に、わずかな違いを示すことがあります。動詞の活用についても(もちろん形容詞や、活用する品質語、活用しない品質語も含みます)その形態だけでなく意味も学んでください。また動詞に後接する助動詞も併せて勉強してください。

しかし、この学習というものは、いつも学習者の創意工夫であって、自分流のやり方で構成していくもので、それがもっとも効果的です。学習者には、本書巻末の索引の中で検索することだけに満足せず、自分自身で膨大な有用表現を収集して学習を行ってもらいたいと考えています。告白すると、数の点でも多様性の点でも本書提示の翻訳作業の課題は不十分です。さらに1000ほどの課題をまとめていますから、よく整理し語彙表を付して、不十分さを補うべく出版することを予定しています。

ところで、日本語のような、西欧語からかけ離れた言語を学習するには、熱意だけでは不十分です。有能な教員の導きが不可欠です。独学が避けられない場合がありますが、原則として、また可能な範囲で、避けたい……。本書を用いる指導者には、学習者に数多くの文例を提示して与えられた説明を詳らかにし、本書提示の翻訳作業を補い、また変化をつけて、学習者の能力を冷静に伸ばしていただき

たいと願っています。

いずれにせよ、本書は急いで作成した草案にすぎず、近い将来、もっと沈着で、もっとうまく構成された著作を目指しています。読者におかれましては率直で適切なご批判を賜り、それを修正と改良につなげていきたいと望んでおります。(以下は謝辞につき省略)

以上で示された本書の意図を要約すると以下のようになる。

- (1) 翻訳練習(フランス語→日本語)と作文を重視する。
 - (2) 日本語で正しく書くためには、文法に関する最低限の知識が必要であるから、それを示す。
 - (3) 他の教科書で日本語の知識を学んでいて、易しい読み物が読める力を持っていれば、本書を有効に活用できる。長沼の標準日本語読本もその一つである。
 - (4) 本書を用いる指導者には数多くの文例を提示して与えられた説明を詳らかにし、本書提示の翻訳作業を補い変化をつけてほしい。
- (1)に関して著者は次のように述べている。

日本語で正確に書くことができること、これが日本語を教える外人教師に要求される必須の資格である。パリで日本語を教えることは、私にとっては翻訳や通訳と同様、生計の手段に過ぎない。しかし、そうとしても、教授している当のフランス人の日本語の質を改め良くしようとしてもよいではないか(森 1978a : 350)。

著者はフランス政府給費生として1950年に渡仏。その数年後、パリ第三大学・東洋語学校で日本語の教授を始めている。上の文章は教え始めて十数年後の感想である。著者自身の言葉を借りると、「ごくあらましを申し上

げると、1950-51年、プルシエ(給費留学生、51年から55年までは自費と友人の援助で通訳などをして勉強し、55年から、日本語を東洋語学校やソルボンヌで教えて今日(筆者注: 1966年)に至りました」と述べている(森 1978b : 124)。正しい日本語文を書く力を養成するという課題が著者の信念になったことがうかがえる。

国際交流基金(1983)は本書の「練習問題」の項の中に「和文仏訳、仏文和訳など」と記しているが、著者は仏文和訳だけを扱っており、和文仏訳という練習問題は皆無である。本書を通読した上で評価するという姿勢が足りなかったように感じられる。

(2)では作文学習の下地となる基礎文法の重要性を説いている。Leçon 2 で見たように著者は、既修者に対して初級文法のおさらいをし、さらに文体に関わるような情報を提供している。著者の説明する文法は、国際交流基金(1983)の言うような「中学以来のあの国文法」ではなく、長沼直兄を踏襲した日本語教育のための文法だった。序文に述べているように、著者の勤務する教育機関では、長沼の日本語読本が使用されていたのである。その巻1のローマ字版である*Basic Japanese Course*にも通曉していたはずである。本書の目次を読むと、各課は品詞別に構成されている。それは、「専門とする国の文化を日本に紹介することを本来の仕事と考えていた者が……、ふりかえって日本を見てみると、その人の目に入ってきたのは、従来の国文法しかなかった」(国際交流基金 1983 : 128)のではなく、著者が翻訳・作文を指導するために取った意図的な方法ではなかったのではなかろうか。

(3)と(4)が本書の主旨である。本書の各課の説明を理解するためには多くの文例が必要だから、注意深い読解を重ねてほしいという

著者の願いが込められている。

5. 著者の実践

前節で著者の本書作成の意図が明らかになった。5節では、その意図をどのように実践したかを概観したい。本書の目次で示したように、各課は主として品詞を柱にした構成になっている(ただし、1課は予備情報、12課は敬語、19課は文字、20課は日本語の歴史)。対象となる品詞に関する文法情報を提示した後に翻訳練習(Exercice de thème)と翻訳課題(Thème)が続いている。翻訳練習は3節で見たように、与えられたフランス語文を日本語に訳す練習で、説明は与えられていない。第2課~第4課に収録されているだけである。翻訳課題では、翻訳の仕方に関する入念な説明があり、その説明に従って翻訳するようになっている。翻訳課題を達成していくうちに日本語の作文力を上達させるねらいがある。

以下では、本書に収められた翻訳課題をすべて取り上げた。第2課の翻訳課題については、3節をご参照いただきたい。

Thème 2 (Leçon 3)

1. フランス語文を日本語文に訳すのが難しいような時には、もっと直接的に訳せるフランス語文を探してみるのが有益です。

(例) A qui appartient ce livre? = A qui est ce livre? このほんはだれのですか。

日本語では主語の省略が頻繁に起こるので、フランス語文の中の主語(二人称や三人称の「il」)は訳さなくてもいいです。

Vocabulaire : qui だれ; mais しかし; et そして

[課題1] A qui appartient ce livre? C'est le mien, mais ce livre n'est pas rouge, il est bleu, et il est sur une chaise.

2. 直接訳せそうな下記の課題には、日本語の特性にもっと適ったほかの言い方がある

可能性を含んでいます。より完璧な翻訳を目指した調整をいつも心がけてください。「AはBが+品質語」という図式に合った構成から始めてみてください。

Vocabulaire : réfléchir かんがえる(考える), はんせい(反省)する; assez じゅうぶん(充分)に

[課題2] La plupart des étudiants ne réfléchissent pas assez.

3. 数字の翻訳に注意してください。

Vocabulaire : joli うつくしい(美しい); portail もん(門); à(avoir à)ねばならない; traverser とおる(通る); pour ために(は), には; parc にわ(庭), こうえん(公園)

[課題3] Il y a deux joli portails à traverser pour pénétrer dans ce parc.

4.

Vocabulaire : petit-fils まご; petite-fille まごむすめ; aimable かわいらしい

[課題4] Cette femme a un petit-fils et une petite-fille très aimables.

Thème 3 (Leçon 4)

1. 「比較」については、Leçon 4の§17をご参照ください。

Vocabulaire : enseigner おしえる

[課題1] Dans cet école-là, on enseigne aussi le français. Le français est plus difficile que l'anglais.

2. ここでは、よく用いられる「という」の用法を習得しなければなりません。「という」は2つの語の間に成り立つ同義性を示します。たとえば、hommeひと、Tanaka たなか(話題の人物名)、たなかというひとひと=たなか、たなかと呼ばれるひと、いぬ(chien)、いぬというどうぶつ(animal)。この同義性の表現は両者の関係を明確にするという長所があります。「うわさ」、「じじつ」、「じだい」という語も使わ

れます。

Vocabulaire : le mot anglais “green” グリーンというえいごのことば ; sens いみ ; signifier といういみです ; vert みどり

[課題2] Quel est le sens de ce mot anglais “green”? Il signifie “vert”.

3. 「en Amérique」の「en」の訳し方に注意してください。アメリカの, アメリカにいる

Vocabulaire : après + 不定詞 (過去) ……てから, ……たあとで ; écrire てがみをかく

[課題3] Après avoir dîné un peu plus tôt que d’ordinaire, j’ai écrit à mes parents en Amérique.

4.

Vocabulaire : A vaut mieux B AはBよりもっとよい (Leçon 4 の §17を参照)

[課題4] L’honneur vaut mieux que la richesse.

5.

Vocabulaire : studieux きんべんです ; recevoir des félicitations de ……にほめられる

[課題5] Ce garçon est très studieux; il reçoit souvent des félicitation de son maître.

6.

Vocabulaire : le gérant かんりにん (管理人) ; la propriété とち (土地) ; honnête しょうじき (正直) な

[課題6] Le gérant de cette propriété est un homme honnête.

7.

Vocabulaire : l’hypocrisie ぎぜん (偽善) ; le défaut けってん (欠点) ; contraire de ……とはんたい (反対) の ; la franchise そっちょく (率直)

[課題7] L’hypocrisie est le défaut contraire de la franchise.

Thème 4 (Leçon 5)

1. 2つの文を接続詞や助詞で結びつける際には特に気を付けてください。その場合には, 継起や逆接, 限定, 譲歩などの意味が生じます。

[課題1] Est-il élève de cette école? Non, il est élève non pas de cette école, mais de la petite école qui est là-bas.

2.

Vocabulaire : professeur せんせい ; beaucoup de たくさんの

[課題2] Cette école est petite, mais la nôtre est plus grande et nous avons beaucoup de professeurs.

3.

Vocabulaire : magasin みせ ; nord きた

[課題3] Mon magasin est à Shibuya, où est le vôtre? Le mien est dans le nord de Tokyo.

4. 疑問または不定の代名詞 + 助詞は否定の意味を示します。だれも = personne, なにも = rien, どこにも = nulle part, 等。Leçon 4を参照。

Vocabulaire : l’éventail おおぎ, うちわ ; autant de ……ほどたくさんの

[課題4] Nulle part on ne voit autant d’éventails qu’au Japon.

Thème 5 (Leçon 6)

1. 「avec」という助詞の翻訳に注意してください。下の課題で, 質問の答えは「un professeur américain lui enseigne l’anglais」という意味で使われていますが, その場合の「avec」は「といっしょに」「とともに」ではなく, 「から = de, par」と訳します。

[課題1] Qu’est-ce qu’il apprend? Il apprend l’anglais avec un professeur américain

2. 日本語の動詞「わかる (comprendre)」には特別の注意が必要です。「わかる」は

「se comprendre」で、主語(筆者注:主格)に置かれます。

「Je comprends l'allemand.」=「わたしはドイツ語がわかります。L'allemand se comprends par moi.」。「わかる」対象が翻訳文では主語(筆者注:主格)になり、「わかる」主体は助詞「には」が付いて、文頭に置かれます。

[課題2] Je ne comprends pas encore bien l'allemand, mais je connais un peu mieux l'italien.

3. 日本語文では、動詞は等位接続された節の中で繰り返すことが可能でもあり義務でもあります。特に、逆接の場合がそうです。また、複数形はどう訳せばいいでしょうか。下の課題の「des fleurs rouges」です。

[課題3] Ce garçon-là tient dans sa main droite des fleurs rouges, mais rien dans sa main gauche.

4. 「être en train de」(継続相, 進行相) = 「ているところです」, もっと簡単には「ています」。過去は「ていたところです」, 「ていたところでした」, 簡単には「ていました」。未来は「現在形+未来を表す状況補語」で表します。例えば「après le diner」=「ゆうはんのあとで」。また、命令形の翻訳にも注意してください。「Venez」=「おいでなさい」「おいでください」「きてください」(「おきなさい」とは言いません)

Vocabulaire : journal しんぶん ; demain matin あす, めようあさ (筆者注: みようあさ)

[課題4] Je suis en train de lire le journal. Je travaillerai après le dîner. Venez demain matin.

5. 「Monsieur, Madame, Mademoiselle」はすべて「さん」と訳します。フランス語の呼びかけ語彙より多様な意味を持っています。

。「さん」はフランス語の「tutoyer」のような親しい関係にも使われます。

Vocabulaire : être vêtu de をきている(動作を表す「きる」と混同しないこと); être coiffé de をかぶっている; chapeau de paille むぎわらぼうし; être chaussé de はいている
[課題5] Monsieur Tanaka est vêtu d'un kimono, coiffé d'un chapeau de paille et chaussé de geta.

6. 「数量詞+名詞」という組み合わせではときどき、文中から名詞が消えて数量詞だけが残されることがあります。例えば「il y a 30 jours dans un mois.」→「いっかげつにはひが三十にちあります」→「いっかげつには三十にちあります」。また、「Dans cette chambre, il y a trois personnes」→「このへやにはひとが三にんいます」→「このへやには三にんいます」。

名詞の後ろの助詞も、数量詞に移動しなければ、名詞とともに消失します。このように、数詞や数量詞は扱うのが難しいです。注意深く読書を重ねて、それらの扱われ方を学んでください。

[課題6] Combien y a-t-il des jours dans une semaine? Il y a sept jours.

- 7.

Vocabulaire : moins le quart 十五ふんまえ
[課題7] Maintenant, il est neuf heures moins le quart.

8. 「Il est (c'est) B de (ou que)」は「A...のはBです(である)」と訳せます。

Vocabulaire : santé けんこう, からだ; se lever tôt はやくおきる, はやおきる

[課題8] Il est bon pour la santé de se lever tôt. Mais en hiver, il est difficile de se lever tôt.

9. 動詞の継続相には他の使い方があります。「知る」(savoir, connaître) という動詞は継

続の形で用いられます。それは、ある事象に関する情報保持ということが、情報獲得後から続いているという理由からです。

Vocabulaire : connaître 知る, 知っている, (ときに) わかる

[課題9] Connaissez-vous les noms des 12 mois de l'année? Dites-les.

10. 数式表現を追加します。

Vocabulaire : faire (下の課題の場合) になる, です

[課題10] Deux et cinq font sept.

11. 「lequel」の翻訳に注意してください。2つの事象, 2人の人物が問題の時には「どちら」, 3つ以上の時には「どれ」と訳します。フランス語では2者比較の中で最上級を使う場合, 日本語では比較級を用います。

[課題11] Lequel est le plus grand, 7 ou 8? C'est 8 qui est le plus grand.

12.

[課題] 次の数式を日本語で言ってください。
 $8 - 3 = 5$, $5 + 3 + 2 = 10$,
 $15 - 3 + 2 = 14$, $4 \times 2 = 8$, $10 \div 5 = 2$, $9 \div 3 = 3$, $6 = 9 \times 2 \div 3$

13. 「coûter」は「する」と訳します。「coûte 10 yen」は「十えんする, 十えんします」。「douzaine ダース」は数量詞です。下の課題の「-m'en」は訳しません。また, 命令形の「donnez」(ください)の訳し方に気を付けてください。

Vocabulaire : par (ici) について (または訳さない)

[課題] Ces crayons coûtent 300 yen par douzaine. Donnez-m'en trois douzaines.

14.

Vocabulaire : il existe ... がある ; haricot まめ (豆) ; variété しゅるい

[課題] Il existe une grande variété de haricots.

15. 「わかる」は自動詞で, 「se comprendre」に対応します。「comprendre A」は「Aがわかる」と訳します。また, 関係代名詞の「qui」の翻訳にも注意してください。「qui」に対応する日本語はありません。「A qui comprend B」という言い方は「Bが(の)わかる [連体形] A」となります。連体形はしばしば関係代名詞の欠如を補うために使われます。

Vocabulaire : la valeur かけ (価値) ; l'instruction きょういく (教育) ; きょうよう (教養) ; l'étude べんきょう (勉強)

[課題15] L'élève qui comprend la valeur de l'instruction aime l'étude

16. 疑問語の後の助詞に注意してください。助詞「は」はその性質上, その位置から排除されます。また, 下の課題では, 関係代名詞「dont」の翻訳にも注意が必要です。ここでも連体形が使われますが, 代わって「おはなしの」を使ってもいいです。「A don't vous parlez」= 「おはなしのA」

Vocabulaire : rencontrer あう (逢う), であう (出会う)

[課題] Où avez-vous rencontré la jeune fille don't vous parlez.

17. 「Croire (しんじる) à l'existence (そんざい) de Dieu (かみ)」は「かみのそんざいをしんじる」, または「かみがそんざいすることをしんじる」と訳されます。どちらも同じように通じます。

Vocabulaire : la plupart des だいぶぶんの (大部分の) ; croire しんじる (信じる) ; l'existence そんざい (存在) ; Dieu かみ (神)

[課題17] La plupart des hommes croient à l'existence de Dieu.

18.

- [課題18] Mon père vient de sortir pour faire une promenade.
19. 「voir + 不定詞 + 名詞または代名詞」という動詞構文は「...が...のを...みる(見る)」と訳します。
 (例) 「je vois mon professeur marche dans la rue.」 = 「わたしはせんせい(先生)がみち(道)をあるく(歩く)のをみます(みています)。」
 Vocabulaire : cortège funèbre そうれつ(葬列); l'Empereur こうてい(皇帝), 日本ではてんのう(天皇)
 [課題19] Avez-vous vu passer ce matin le cortège funèbre de l'Empereur.
20. 連体形(終止形も)の後ろに助動詞が付加されることはほとんどありません。
 Vocabulaire : le hibou ふくろう(梟); l'oiseau nocturne やちょう(夜鳥); le jour ひるま(昼間); le trou あな(穴), ほら(洞); un arbre き(木)
 [課題20] Le hibou est un oiseau nocturne qui se cache pendant le jour dans le trou d'un arbre.
21.
 Vocabulaire : habiter ...にすむ(住む); le désert さばく(砂漠); l'Afrique アフリカ
 [課題21] Le chacal habite le désert de l'Afrique.
22. 今回の課題は, すぐには日本語に訳せないため, 注意が必要です。諸要素すべてから喚起されるシーンを思い浮かべてください。それからそれらを日本語の品詞の配列に置き換えてください。
 Vocabulaire : chrysanthème きく(菊); jardin にわ(庭), ていえん(庭園); variété さまざまなこと, たよう(多様); form かたち(形); couleur いろ(色), しきさい(色彩)
 [課題22] En automne, les chrysanthèmes
- égaient nos jardins par la variété de leurs forms et de leurs couleurs.
23. 「il faut」は「ねばならない」「なくてはいけない」「べきである」の中から選択します。これら3つの表現の代わりに命令表現を選んでもいいですが, どの形式を選ぶかしばしば迷いますけれども。
 Vocabulaire : la vérité しんり(真理); le mensonge うそ(嘘), きよぎ(虚偽)
 [課題] Il faut aimer la vérité et haïr le mensonge.
24.
 Vocabulaire : confier あずける; fils むすこ(息子); directeur de l'hôpital びょういん(病院)のいんちょう(院長)さん
 [課題24] Ma tante a confié son fils au directeur de l'hôpital,
25. 「mériter」という動詞は訳しにくいです。訳そうとすれば, 下の課題では「のしかく(資格), qualité, droitがある(avoir la qualité, le mérite, le droit de recevoir...)」がいいでしょう。
 Vocabulaire : le fondateur そうりつしゃ(創立者); l'hôpital びょういん(病院); mériter (en règle general) のねうち(valeur)がある; reconnaissance かんしゃ(感謝); public おおやけの, みんなの
 [課題25] Le fondateur de l'hôpital mérite la reconnaissance public.

Thème 6 (Leçon 7)

1. 動作を表す文ではおおむね, 主語→動作の対象→動作動詞という語順で叙述されます。
 (例) 「わたくしはほんをよみます。」 → 「je lis un (le) livre.」
 関係代名詞は日本語に訳されません。従属節の動詞(連体形)が, 関係代名詞の先行詞となる名詞を修飾する形式となります。
 [課題1] Vous regardez un livre rouge qui

est sur la table.

2.

Vocabulaire : s'appeler よばれる, よぶ ;
porter le vêtement きものをきる ; porter le
chapeau ぼうしをかぶる ; porter les chauss-
ures はきものをはく (穿く) ; Japonais にほ
んじん (日本人), にほんのひと (日本の人)
[課題] Le vêtement que portent les Japonais
s'appelle *kimono*.

3.

Vocabulaire : le jouet おもちゃ ; faire la
joie de ... をよろこばせる
[課題3] Le jouet fait la joie de l'enfant.

4.

Vocabulaire : la bonté ぜんりょうさ (善
良さ), ぜんりょうである ; tout le monde
みんな, すべての人, だれからも
[課題4] La bonté nous fait aimer de tout le
monde.

5. 「on dit que」は受動態で訳せます。

Vocabulaire : le miroir かかみ (鏡) ; l'âme
たましい (魂)
[課題5] On dit parfois que l'œil est le
miroir de l'âme.

Thème 7 (Leçon 8)

1. フランス語の半過去は原則として日本語
動詞の継続相に翻訳されます。また、主節
と従属節の順序に注意してください。従属
節で用いられる動詞の時制にも気を付けて
ください。

Vocabulaire : être debout たっている
(...ています) ; tandis queが,と
ころが ; この従位接続は、日本語では従位接
続詞にも等位接続詞にも翻訳されます。同
様の接続が他にもたくさんあります。

[課題1] J'étais debout lorsque le profes-
seur parlait, tandis que mon ami
restait assis.

Thème 8 (Leçon 9)

1. 助動詞の「です」「だ」「であります」に
注意してください。

[課題1] L'homme est le roi de la création.

Thème 9 (Leçon 10)

1. 形容詞「grand」が、動詞を修飾する副
詞として使われた時の翻訳は「たいそう、
たいへん、ひじょうに」です。

Vocabulaire : le bœuf うし (牛) ; le che-
val うま (馬) ; rendre le service やく (役)
にたつ (立つ) (表現 (...のやくにたつ) ;
l'agriculture のうぎょう (農業)

[課題1] Le bœuf et le cheval rendaient de
grands services à l'agriculture.

2.

Vocabulaire : la foule ぐんしゅう (群衆) ;
nombreux たくさん (沢山) の ; le discours
えんぜつ (演説)

[課題2] Une foule nombreuse applaudit le
discours.

3.

Vocabulaire : une nouvelle ほうどう (報
道) ; intéressant おもしろい (面白い)

[課題3] Le journal d'hier a donné une nou-
velle très intéressante.

Thème 10 (Leçon 12)

1. 命令形が不規則な動詞があります。

(例) 「Venez」→「おいでなさい」(「きて
くださいとは言いますが、「おきなさ
い」とは言いません)。また、「Voyez,
regardez」は「ごらんなさい」と言い
ますが、「おみなさい」とは言いま
せん。「みなさい」「みてください」と
は言えます。

「Vous avez bien écrit」という文の訳
し方に注意してください。「よくかき
ました」ではなく、「よくかけました
(可能相)」となります。

Vocabulaire : tableau (noir) こくばん

[課題1] Venez ici et écrivez ce mot au tableau. Vous avez bien écrit.

2. 命令形の訳し方は, Leçon 12, § 34, 1, 3), β) を参照してください。

Vocabulaire : toujours (命令形といっしょに) かならず; le conseil すすめ, かんこく (勧告); expérimenté けいけん (経験) の (が) ある

[課題2] Ecoutez toujours le conseil d'une personne expérimentée.

Thème 11 (Leçon 13)

1. 「combien」は「が なんにん」と訳します。「が」は助詞, 「なんにん」は数量詞です。下の課題の「on compte」は, 人や有生のときには「います」, 物の場合には「あります」と訳します。数量詞に関する部分をよく読んでください。

[課題1] Combien de professeurs et d'élèves y a-t-il dans cette école? On compte 20 professeurs et 500 élèves.

2. 数詞と数量詞を徹底的に学習してください。また, 「deux personnes」を訳す際に, 直後の助詞に注意してください。「は」ではなく「が」を用います。一般的に, 疑問名詞が主語の時には「は」ではなく「が」を使います。

Vocabulaire : petit ちいさい, ちいさな; <反意語 grand> おおきい, おおきな; 「ちいさな」「おおきな」は親愛語です。

[課題2] Combien de personnes se trouvent-elles dans cette petite maison? Deux personnes habitant cette maison, un garçon et sa mère.

3. Leçon 8 参照。年齢は0歳を基準に数えます。10歳までは和語系数詞, それ以降は漢語系数詞を用います。

Vocabulaire : à peu près およそ, ぐら

い, 等

[課題3] Quel âge a à peu près cet enfant? Il a douze ans.

4. 一般的に, 語順は日本語の性格に合致し, あらゆる状況を列挙してから主動詞が表す状態や動作が続きます。助詞にも注意を払いましょう。

Vocabulaire : partie のほう, のぶぶん; peinture え; près de のそばに; l'un d'eux そのひとり; s'amuser あそぶ; se reposer やすむ; le style japonais にほんふうの

[課題] Regardez la partie gauche de cette peinture. Il y a trois enfants près de la maison de style japonais. L'un d'eux s'amuse dans la rue et les deux autres se reposent, assis sur l'herbe.

- 5.

Vocabulaire : d'après によれば, ... によると (被修飾語の後ろ); la majorité だいたすうの (大多数の); le journal しんぶん (新聞); ce matin けさ (今朝) (ce matin-là そのあさ); les ouvriers ろうどうしゃ (労働者); la grève ひぎょう (罷業), ストライキ; demain あす

[課題5] D'après le journal de ce matin, la majorité des ouvriers fera grève demain.

6. Leçon 13, § 35, b) 参照。この課題で, 「panier かご」は助数詞です。

Vocabulaire : acheter かう; ... panier de かごの....; les fraises いちご; à (ここでは「から」); le marchand しょうにん (商人)

[課題6] J'ai acheté cinq paniers de fraises à ce marchand.

7. Leçon 13, § 35, b) 参照。

Vocabulaire : être abonné... をこうどく (購読) する; le journal しんぶん (新聞)

[課題7] Je suis abonné à deux journaux.

8. ここでは「combien」の訳し方が問題です。使われている数量詞を考慮しなければなりません。この課題は金額ですから、「いくら、いかほど」と訳します。

[課題8] Combien coûte le joli éventail que vous avez acheté pour mon neveu?

9. 「trois heures」は数量詞です。

Vocabulaire : généralement いっぱんに, ふつう (は); gymnastique たいそう, たいいく

[課題9] Dans les lycées, il y a généralement trois heures de gymnastique par semaine.

10. 「le plus....de....」は「...で(中で)いちばん」です。Leçon 4, § 17, 4. 参照。

Vocabulaire : L’Egypte エジプト

[課題10] L’Egypte est l’un des pays les plus fertiles du monde.

11. 日本語では未来時制は現在時制が代用します。下の課題の「くる」を例に取れば、「くるでしょう」とか「くるだろう」とは言いません。ただ、「くる」と言えばよく、「くるはずです」「くるようです」「くるとおもいます」などとも言えます。

[課題] Hier soir, j’ai reçu une lettre de mon grand-père. Quand viendra-t-il? Il viendra au mois d’août.

Thème 12 (Leçon 14)

1. フランス語の「A a B」の翻訳文には「AにはBがあります」(dans A, il y a B)という日本語文も使われます。

Vocabulaire : ne....que しかありません(同時に), になってはじめて….(継時的に)

[課題] Un mois a trente ou trente et un jours. Mais le mois de février n’a que 28 jours.

2. 必要とする時間を表す時には「かかる」

という動詞を使います。

(例)「Il faut dix jours」=「十かかかります」
Vocabulaire : autobus バス; être loin de からとおい; falloir かかる

[課題2] Ma maison n’est pas loin de l’école. Pour aller à l’école, il ne faut que 12 minutes en autobus.

3.

[課題3] L’hiver a commence tôt cette année.

4. 小さい数, 少ない量を表す日本語は「すこし, わずか, しょうすう(少数)」で肯定の意味で用いられます。否定の意味では、「しかない, ほとんど....ない」を使います。
Vocabulaire : candidats こうほしや(候補者), じゅけんせい(受験生); la première fois たった一かい(回)で, 一かいめ(回目)で; l’examen d’entrée にゅうがくしけん(入学試験); le Lycée Supérieur こうとうがっこう(高等学校)

[課題4] Un très petit nombre de candidats réussit la première fois à l’examen d’entrée du Lycé Supérieur.

5. 「faire bonne garde」は「よくばんをする」と訳されます。このような慣用表現は注意深い読解を通して学ぶことができます。注意深い読解を重ねることにより翻訳力を鍛えることができます。その大切さは強調してあまりありません。

Vocabulaire : le voisin となりのひと(隣の人), または簡単に「となり」; faire bonne garde よくばん(番)をする

[課題5] Le chien de mon voisin fait bonne garde pendant la nuit.

6. 「on」はしばしば訳さないことがあります。
Vocabulaire : les allé さんぽみち; répan-dre しきつめる; tiré とった; le lit des riv-ière かわどこ

[課題 6] Dans les allées des jardins, on répand souvent de petits cailloux tirés du lit des rivières.

Thème 13 (Leçon 15)

1. 日本語と少し表し方の違うフランス語の疑問や感嘆の言葉に対応する日本語表現を見つけるのにしばしば問題が生じます。§38をご参照ください。これらの言い方をそのまま翻訳するには多くの注意が必要となります。なぜなら、両言語の違いがそこに表れるからです。

Vocabulaire : gentil おとなしい, かわいらしい; joyeux うれしそう (です, である)

[課題 1] Regardez comme cet enfant est gentil et joyeux.

Thème 14 (Leçon 16)

1. 従属節の中の主語名詞は「は」ではなく「が」で示されます。従属節は主節に先行するので、その主語名詞が主節のものではなく従属節のものであるかどうか確かめなければなりません。日本語文の読解をする中で、このやり方を用いてみてください。主節の主語名詞に続く助詞にも注意してください。

Vocabulaire : comme …… ので, …… から; enseigner おしえる; langue ことば

[課題 1] Comme il n'y a pas de professeurs allemands dans cette école, ce sont des Japonais qui enseignent cette langue.

2. 「parce que」は「から……です」という従属節に訳されます。「から」を「てから」と混同しないでください。「てから」は「après que」です。「から」は動詞あるいは助動詞の終止形に付きますが、「てから」は動詞の中止形に付きますが、音便の中止形に気を付けてください。

[課題 2] Pourquoi n'allez-vous pas aujour-

d'hui à l'école? Parce que aujourd'hui, c'est dimanche.

3. 「aller voir」→「aller pour voir」みにいく、です。目的を表す「に」を必要とする動詞は限られています。「aller」, 「rentrer」かえる, 「faire un détour, faire un arrêt, s'arrêter」よる, などの動詞です。目的を表す日本語にはほかに、「ために」「……うと思って」があります。「étant occupé」「n'avais pas de temps」のような表現の翻訳に注意してください。

Vocabulaire : fleurs はな (「はな」は桜を指すことがある。ここはその例です); être occupé いそがしい; n'avoir pas de temps じかんがない, ひまがない

[課題 3] Je ne suis pas allé voir des fleurs cette année, parce qu'étant très occupé, je n'avais pas de temps.

- 4.

Vocabulaire : Napoléon ナポレオン; trop あまり, あまりの, ……すぎる; voilà pourquoi それゆえ (故), だから; empire ていこく (帝国)

[課題 4] Napoléon avait trop d'ambition, voilà pourquoi il a perdu son empire.

5. 従属節+従位接続詞はいつも主節に先行します。接続詞の直前の動詞の形に注意してください。Leçon 6 の §41をご参照ください。

「とき」は、いわゆる接続詞ではありません。助詞「は」の助けを借りて接続詞として用いられます。他の場合(前置詞句など)と同様に、この助詞は他の助詞に置き換えられます。

Vocabulaire : une foule de たくさんの (沢山の); rapporter もつてかえる

[課題 5] Quand mon oncle revient d'Europe, il rapporte une foule de choses.

6. 「A l'approche de l'hiver」は、従属節「ふゆ（冬）がちかづく」と「...」と訳されます。
 Vocabulaire : l'hiver ふゆ（冬）; l'approche せっきん（接近）; une multitude de たくさん（沢山の）; les oiseaux とり（鳥）; quitter さる（去る）; froid さむい（寒い）

〔課題6〕 A l'approche de l'hiver, une multitude d'oiseaux quittent les pays froids.

7. 「Dés」は「...から...もう（déjà）」と訳されます。

Vocabulaire : fumer une cigarette たばこ（煙草）をすう（吸う）; voilà pourquoi だから; tousser せき（咳）をする; toute la journée いちにち（一日）じゅう

〔課題7〕 Dés le matin, il fume une cigarette. Voilà pourquoi il tousse toute la journée.

Thème 15 (Leçon 17)

1. 次のフランス文の翻訳に留意してください。

L'homme a deux bras et deux jambes →ひとにはてが二ほんとしが二ほんあります。

日本文に文字通り対応するフランス文は「Chez l'homme, il y a deux bras et deux jambes」です。フランス文の主語が日本語では「位格」で表されることもあります。

Vocabulaire : poisson さかな; vivre すむ; manger たべる

〔課題1〕 Le poisson n'a ni jambes ni bras. Il vit dans l'eau. Les Japonais mangent beaucoup de poissons.

2. 「marcher sur le pont」というフランス語に対応する日本語は「はしのうえをあるく」です。移動を表す動詞は、移動の行われる場所や空間を示す語の後に助詞「を」を要求します。

（例）marcher dans la rue みちをいく; vol-

er dans le ciel そらをとぶ; évoluer dans l'eau みずのなかをおよぐ。

Vocabulaire : pont はし; rendre visite たずねる; de l'autre côté de のむこうに; rivière かわ; habiter すむ

〔課題2〕 Cinq personnes marchent sur le pont. Ils vont rendre visite à des amis qui habitent de l'autre côté de la rivière.

- 3.

〔課題3〕 Il y a un porte-monnaie sur la table verte; C'est le mien.

4. この課題は特に注意が必要です。フランス語と日本語の間で表現方法がまったく異なる例を出題したからです。「au mois de mars 二がつに（筆者注：三がつに）」という状況補語は、否定文の中では助詞「は」を付加しなければならないのです。

Vocabulaire : porter des fleurs はながさく cf. porter des fruits みがる

〔課題4〕 Les cerisiers ne portent pas encore de fleurs au mois de mars.

5. 「au climat plus doux」の中の「à」の訳し方に注意してください。「もっとよいきこうの」あるいは「きこうが（の）もっとよい……」のようになります。

Vocabulaire : hirondelle つばめ; vivre いきている, いきる

〔課題5〕 L'hirondelle vit avec nous durant la belle saison et passe l'hiver dans un pays au climat plus doux.

6. 「dans un hôtel au pied d'une montagne, non loin d'un hameau」の翻訳に気を付けてください。「au」は「にある（qui est à...）」または「の（de）」と訳してください。ここでは、「l'hôtel」の修飾語はすべて「l'hôtel」の前に置かれなくてはなりません。

Vocabulaire : s'arrêter とまる; l'hôtel ホ

テル, やどや; pied あし (が, ここでは, ふもと) (pied d'une montagne); non loin de からとおくない; l'hameau むら

[課題6] Nous nous sommes arrêtés dans un hôtel au pied d'une montagne, non loin d'un hameau.

7. 受動態をそのまま翻訳することがいつもいいわけではありません。表現価値が同一の他の態を探すこと, 能動態の「非人称構文」さえ可能なのです。要は, いつも「日本語風に構成」するようにしましょう。

Vocabulaire : être étudié まなばれる; l'université だいがく (大学)

[課題7] Au Japon, le français est étudié dans beaucoup d'université.

8.

Vocabulaire : pêcheur ぎよふ (漁夫); hameçon つりばり (釣針); avec で (具格)

[課題8] Le pêcheur prend les poissons avec un filet ou un hameçon.

9. Venir + 不定詞→にくる (に来る)

Vocabulaire : une de foule de たくさん (沢山) の, おおぜい (大勢) の; étrangers がいこくじん (外国人), がいじん (外人)

[課題9] Une foule d'étrangers viennent chaque année visiter les beaux paysages du Japon.

10.

Vocabulaire : faisan きじ (雉)

[課題10] J'ai vu une grande quantité de faisans dans le voisinage de Sendai.

11.

Vocabulaire : L'Hôtel des Monnaies ぞうへいきょく (造幣局)

[課題11] L'Hôtel des Monnaies se trouve à Osaka.

12. Leçon 2 の §10 を参照。疑問文は平叙文 (非疑問文) と, 疑問名詞を除けば違いが

ありません。

(例) D'où vient votre frère? あなたのおとうとはどこからきますか。

Vocabulaire : le frère きょうだい (兄弟) (frère aîné あに, frère cadet おとうと); de chez... のうちから; cousin いとこ (従兄 aîné または従弟 cadet)

[課題12] D'où vient votre frère? Il vient de chez mon cousin.

13.

Vocabulaire : le lion しし (獅子); le tigre とら (虎); carinivore にくしよく (肉食) の; l'animal どうぶつ (動物); l'animal carnivore にくしよくどうぶつ

[課題13] Le lion et le tigre sont des animaux carnivores.

14. 複数の表し方を学んでください。日本語の名詞は複数という概念を持っていません。なんらかの複数の形態を付加することになります。「人」の場合は「ら」, 「たち」を用います。こどもら, こどもたち = des enfants, また「なんにんかの」(文字通り quelques personnes) という言い方もあります。なんにんかのこども = des enfants。「もの」の場合, 「いくつかの…」を使います。いくつかのはこ = des boîtes。「など」という語がありますが, 複数を表すのではなく, 「etc」「et d'autres choses」に対応します。

Vocabulaire : la voix こえ (声); magnifique うつくしい (美しい); avoir もっている, している (tr. 他動詞)

[課題14] Ces enfants ont des voix magnifiques.

15. 「Dans ces montagnes」は文脈により, 「これらのやま (山) のなか (中) に」, あるいは「これらのやま (山) のなか (中) で」と訳されます。「に」と「で」の違いは微妙ですが, 大切です。「これらのやまのな

かに」では、犬の鳴き声が聞こえますが、主語（わたし）は山のそとにいることを示しています。「このやまのなかで」では、主語（わたし）も山の中にいることを示しています。

Vocabulaire : le cri こえ, なきごえ ; un chien 一びきのいぬ

[課題15] Dans ces montagnes, j'ai entendu le cri d'un chien.

Thème 16 (Leçon 18)

1. “venir de...” という近接過去を翻訳するのには。「たところす」という日本語表現があります。

(例) je viens de voir. わたしはみたところす。

「たところす」は主に主節の中で使われます。従属節の中では「たばかりす」が好まれます。

Vocabulaire : avec で, をもって, をつかって。助詞の「で」についてはLeçon 17の§43をご参照ください。

[課題1] Vous venez d'écrire votre nom avec un style sur cette feuille de papier. (筆者注 : styleはstylo (ペン)の誤植?)

2. Combien 「いくら」は量 (測れる大きさ) について尋ね, combien 「いくつ」は計算できる数について尋ねる場合に使われます。Mille yen 「千えん」というのは数量詞で, 助詞の「が」を用いません。文の中で, 「おかねが千えんあります」のように使われます。

[課題2] Combien y a-t-il d'argent dans ce porte-feuille? Il y a mille yen.

3. この課題では逐語訳にしたいのですが, 日本語の普通の言い方を採用したほうが良いと判断しました。つまり「A renferme beaucoup de B」というフランス文を「Aに

はBがたくさんあります, みいだされます」と翻訳しました。

Vocabulaire : histoire れきし ; héros えいゆう ; héros et héroïnes だんじょ (おとこやおんな) のえいゆう。

[課題3] L'histoire du Japon renferme les noms d'un grand nombre de héros et d'héroïnes.

4.

Vocabulaire : les vitraux やきえがらす (焼絵ガラス), ステンドグラス ; le verre がらす, ガラス ; de couleurs いろ (色) のついた ; surtout とくに ; employer もちいる (用いる), つかう (使う) ; la fenêtre まど (窓) ; l'église きょうかい (教会)

[課題4] Les vitraux sont des verres de couleurs, surtout employés pour les fenêtres des églises.

5.

Vocabulaire : le coucou ほととぎす ; pondre うむ (生む) (卵を) ; les œufs たまご (卵) ; le nid す (巣)

[課題5] Le coucou pond ses œufs dans le nid d'autres oiseaux.

6.

Vocabulaire : la peinture え, かいが (絵画) ; la sculpture ちょうこく (彫刻) ; développer はったつ (発達) させる ; le gout du beau び (美) にたいするしゅみ (趣味)

[課題6] La peinture et la sculpture développent en nous le gout du beau.

以上が翻訳課題のすべてである。この実践について著者は次のように述べている。

今, 日本語の入門書 (仏文和訳を中心として) を授業の必要上作製しているが, 日本語を正しく学ぶためには, 十分に準備された語彙がどうしても必要だと思う。それは外国人のためだけではなく,

われわれ日本人にとって、どうしても欠くことができないもののように思われる。そしてそういう語彙は不幸にして存在しない。これまではそれでよかったかも知れない。われわれは余りにも日本語の中に埋れるようにして安易に生きてきたから。しかし今日はもうそれではすまなくなつた。毎日の雑誌の小説類を読めばすぐ判る。恐るべき言葉の混乱がある。それは、一つの言葉が豊かになるための過渡期というようなものではない。……、こういう高次の実用を目的とした本が殆どないことは驚くほどである。こういうある意味で教育的、ないしは実用的な仕事は非学問的だということで、人々がやりたがらないかもしれないが、……、有能な人が全能力を傾けて、こういう仕事をして貰いたいと思う (森 1978a:273-274)。

また、本書の出版に寄せて次のように記している。

大修館から「日本語教科書」の初校を送ってくる。印刷はすばらしい出来だ。既に僕は、将来、改訂し増補して出版するときのことを考えている。それには文語に関する基礎概念の一章と漢文入門の一章とをつけ加える。今すべきことは、作文の問題を整理することと序文を書くことだが、この序文はできるだけ完璧なものにしたい。十年もたてばそれは日本研究家の必携書となるであろう (森 1981: 273-274)。

著者の実践内容を日本語教育の観点から評価すると、フランス語と日本語の架け橋となるような多様な視点から分析と指導を行っていると言えるのではなからうか。「フランス語文を日本語文に訳すのが難しそうな時には、もっと直接的に訳せるフランス語文を探

してみるのが有益です」(Thème 2) という提案は、両言語間の差を埋める基本的なストラテジーであろう。「[on] はしばしば訳さないことがあります」(Thème 12) という説明もそうであろう。その他、フランス人学習者への日本語指導の際に注意しなければならない項目が多く記述されており、著者の長い経験がよく生かされていることがわかる。INLCOで教鞭を執り始めてから十数年をかけて、学習者を観察し、教材を何度も作り変えるという試行錯誤を経て誕生したのが本書であることに間違いないだろう。1960年代の日本語教育実践として記憶されるべき事業であろう。国際交流基金(1983)の「外国人に日本語を教えるのに適していると思って取り上げたのではないであろう」という批判が的外れであることは明らかであろう。

著者の本書への期待「十年もたてばそれは日本研究家の必携書となるであろう」ということについてはコメントを控えたい。筆者の力量を超えているためである。ただ、著者の自負にもかかわらず、本書が『森有正全集』に収録されていないことに不可解な思いを抱く。『全集』は著者の死後の1978年から刊行が始まり、次のような内容構成になっている。第1巻:「バビロンの流れのほとりにて」、
「流れのほとりにて」、他
第2巻:「城門のかたわらにて」。「砂漠に向かって」、他
第3巻:「遙かなノートルダム」、他
第4巻:「旅の空の下で」、他
第5巻:「木々は光を浴びて」、他
第6巻:「現代フランス思想の展望」、他
第7巻:「近代精神とキリスト教」、他
第8巻:「ドストエフスキー覚書」、他
第9巻:「デカルトの人間像」、他
第10巻:「パスカルの方法」、他
第11巻:「パスカルにおける「愛」の構造」、他

第12巻：「経験と思想」、他

第13巻：日記1954年5月～1968年5月

第14巻：日記1968年10月～1976年8月

補 巻：補遺

この中にはフランス語で書かれた芥川龍之介論も収録され、また著者の日本語観が展開されている「経験と思想」（岩波書店『思想』1970年11月号（No.557）から4回にわたって掲載された）も収められている。本書 *Leçon de Japonais* は著者の主著の一つと断言していいものである。『全集』と銘打つからには収録してしかるべきではないだろうか。

『全集』の大部分が著者の文明論と思想論から成り立っていることに異論を挟むものではない。著者の文章が当時広く受け入れられていたことは、大江（1976）の「僕はひとり自分のみならず、森有正の感じ方・考え方にみちびかれて、あらたにおのれの凍りついた微笑を見つめかえしはじめている幾多の人々の存在を感じ」（p.209）ているという言葉から明らかであろう。著者に共鳴した世代は2021年においてもその影響を語っている。森本（2021）は「深い森の中で湖の底に潜ったような気持ち。薄明の中で息をしようともがくが、手足がスローモーションのようにしか動かない。水を通してくぐもった声が聞こえてくる。何を言っているのかよくわからないのだが、それをきちんと聞き分けないと、やがて自分は暗黒の底に沈んでしまうのではないか。だから必死にそれを理解しようともがき続ける—森有正を読むということは、わたしにとってそんな行為だった。」「森有正を読むということは、結局そこに書かれたことを自分の個の内面に構築し直すことなのだ」と綴っている。鷲田（2021）は、「かれの批判は教会そのものに対する批判であるよりは、現代の教会が真に徹底的に教会でないところからおこってきたものである」と内村鑑

三を評した森の言葉を取り上げ、「これを政治についていえば、いつの時代もそれへの不信は、それが「徹底的に」政治的でありえていないところ、政治の基本を怠っているところに生まれる」と述べている。「日本研究家の必携書」への著者の意気込みをこのような流れの中に置いてみるのもいいのではないだろうか。

なお、著者による翻訳課題の解答例が本書に収録されている（Traductions-modèles: pp.179-188）。本論の参考文献の下に、その一部を転載した。

6. おわりに

国際交流基金（1983）では、以上の他に以下の批判が付け加えられている。

- (1) 「-て形」の作り方や補助動詞が「注」の中で取り上げられているのは本道を外れている。
- (2) ハイフンの付け方がおかしい。
- (3) 「形容詞の最上級」とあるのはおかしい
- (4) 数詞のところ「3」みそ、「4」よそ、「八百万」やおよろず、とあるが、「どうでもいいことである」。

いずれも枝葉末節にすぎない。本書の作成意図を読み違えてしまったための、誤った批判であることは明らかである。

この拙論により本書が正当に評価されることを願っている。

今後の課題は、本書の序文の中に示された著者の言語観「学校で用いる“規範”文法というのはありますが、それは、日本語の表現の中で認められる規則性を整理したものにはすぎません。一方フランス語の場合に見られるように、いわゆる文法というものは、言語の構文の用い方に資するものなのです。実際、日本語文法は、ある程度の規則性を示しつつも文法規則には集約しにくい日常表現を正確

に書くということにはあまり役に立ちません……」という言説を検討することである。

参考文献

大江健三郎 (1976) 「森有正・根本的独立者の鏡」, 『同時代としての戦後』 所収。講談社文庫, 講談社。

川本茂雄編 (1977) 『座談会・ことば』, 大修館書店。初出は雑誌『言語』創刊号, 1972年4月, 大修館書店。

国際交流基金編 (1983) 『日本語教科書ガイド』, (株)北星堂書店。河原崎幹夫・吉岡武時・吉岡英幸の3氏が執筆。

Jorden, E. H (1987) . *Japanese: the Spoken Language*, vol. 1. Yale University Press.

森有正 (1978a) 『森有正全集 第2巻』, 筑摩書房。執筆は1966年, 「砂漠にむかって」所収。

森有正 (1978b) 『森有正全集 第3巻』, 筑摩書房。

森有正 (1981) 『森有正全集 第14巻』, 筑摩書房。

森本あんり (2021) 「半歩遅れの読書術」, 『日本経済新聞』2021年9月4日朝刊, 日本経済新聞社。

鷺田清一 (2021) 「折々のことば」, 『朝日新聞』2021年9月7日朝刊, 朝日新聞名古屋本社。引用された森の言葉は『森有正全集 第7巻』(筑摩書房, 1979年)の301ページにある。

Traductions-modèles (翻訳解答例) の一部

Leçon 1~13は省略し, Leçon 14~18について本書から転載する。

Leçon 14

[課題1] いっかげつにはさんじゅうにちかさんじゅういちにちあります。しかしながつにはにじゅうはちにちしかありません。

[課題2] わたくしのいえはがっこうからとおくはありません。がっこうへいくのにバスでじゅうにふんしかかかりません。

[課題3] ことしはふゆがはやくきた。

[課題4] こうとうがっこうのにゅうがくしけんではいっぺんでせいこうするじゅけんせいはひじょうにすくないです。

[課題5] となりのいぬはよくばんをします。

[課題6] にわのこみちに, かわどこからとってきたじゃりをしくことがよくあります。

Leçon 15

[課題1] ごらんささい, このこはなんておとなしいのでしょうか, うれしそうにしていますね。

Leçon 16

[課題1] このがっこうにはドイツじんのせんせいがいけませんから, にほんじんがドイツごをおしえています。

[課題2] あなたはなぜきょうがっこうへいきませんか。きょうはにちようびだからです。

[課題3] たいへんいそがしくて, じかんがなかったので, ことしははなをみにゆきませんでした。

[課題4] ナポレオンはやしんがありすぎて, そのていこくをうしなしました。

[課題5] おじさんがヨーロッパからかえるときには, たくさんのもをもってきます。

[課題6] ふゆがちかづくと, たくさんとりがさむいくにをさってゆきます。

[課題7] あのひとあさからたばこをすっています。だからいちにちじゅうせきをしています。

Leçon 17

[課題1] さかなにはてもあしもありません。さかなはみずのなかにすんでいます。にほんじんはさかなをたくさんたべます。

[課題2] ごにんのひとがはしのうえをある
いています。かわのむこうがわにす
むともだちをたずねてゆくところ
です。

[課題3] みどりいろのつくえのうえにさい
ふがひとつあります；それはわたく
しのです。

[課題4] さくらのきはさんがつにはまだは
ながさきません。

[課題5] つばめはよいきせつのあいだわが
くににいますが、ふゆにはもっとよ
いきこうのくにへうつります。

[課題6] わたくしたちはむらからあまりと
おくないやまのふもとにあるホテル
にとまりました。

[課題7] にほんではたくさんのだいがくで
フランスごをおしえています。

[課題8] ぎょふはあみかつりばりでさかな
をとります。

[課題9] たくさんのがいじんがにほんのう
つくしいけしきをみにきます。

[課題10] わたくしはせんだいのちかくでき
じをたくさんみました。

[課題11] ぞうへいきょくはおおさかにあり
ます。

[課題12] おとうとさんはどこからきました
か。いとこのところからきました。

[課題13] ししとらはにくしょくどうぶつ
です。

[課題14] このこどもたちはよいこえをして
います。

[課題15] このやまのなかでわたしはいぬの
なきごえをききました。

Leçon 18

[課題1] あなたはいまこのかみにまんねん
ひつでおなまえをかきました。

[課題2] このさいふのなかにはおかねがい
くらありますか。にせんえんありま
す。

[課題3] にほんのれきしにはたすうのだん
じょのえいゆうのながでできます。

[課題4] ステンドグラスはしきさいのある
グラスで、とくにきょうかいのまど
につかわれます。

[課題5] ほととぎすはほかのとりすにじ
ぶんのたまごをうみつけます。

[課題6] かいがとちょうこくはわれわれの
びにたいするしゅみをせいちょうさ
せます。